

当施設の細菌統計システムの紹介

藤吉 章雄, 井上 重昭, 河岸 守
(株式会社シオノギバイオメディカルラボラトリーズ)

【はじめに】

近年、日和見感染による院内感染や薬剤耐性菌の蔓延が問題となっている中で、細菌検査室の役割は益々重要度を増している。日常検査においては、個々の検査結果を報告することだけにとどまらず、施設での菌の検出率や耐性率をモニタリングし、院内感染の監視、アウトブレイクの早期発見に役立つ情報を臨床に提供することも重要である。当施設では本年2月より新しい細菌検査システムを導入し培養同定検査および薬剤感受性検査の結果を集計し、各施設に細菌検査統計資料を提供できるようになった。今回そのシステムを紹介するとともに、統計資料の利用施設の満足度および要望をまとめたので、報告する。

【システム仕様】

サーバー：Express5800/ 120Lg

OS：Windows2000Server

データベース：Oracle9i

【統計内容】

各施設に対し以下の3種類の統計資料を提供できる。

分離菌・薬剤耐性菌統計：分離頻度が高い10菌種および薬剤耐性菌（MRSA、PRSP、VRE、多剤耐性緑膿菌）の分離数、分離頻度、陽性率を表示している。全体的な菌の検出状況が把握できる。

薬剤感受性統計：分離頻度の高い13菌種の薬剤感受性状況を示しており、治療方針（抗菌薬の選択）の指標として活用できる。

結果値一覧：検出菌の全てが示されており、菌種を指定することで注意すべき対象菌の詳細な検出状況を把握することができる。

【まとめ】

統計資料は、Excel形式のファイルで管理されているため、各施設の要望、目的に応じた統計資料を作成することが可能である。当施設は検査結果の付加価値として細菌統計資料を提供している。この統計資料は感染管理、特に院内感染対策のための有用な資料として利用されることで、医療への貢献ができると思う。[連絡先]06-6382-5496